

出題分析			
試験時間	90分	配点	150点
		大問数	3題
分量（昨年比較）	[減少 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較）	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>今年度も大問3題であった。記述式問題が25個、論述問題が33行と、記述式問題、論述問題ともに微減したものの、おおむね例年並みの分量といえる。地域は、第1問は東洋史と西洋史、第2問は明清代を中心とした東洋史、第3問は主に近現代西洋史と幅広い分野から出題された。時代はまんべんなく出題されたが、古代史はやや少なかった。図像の読み取り問題も出題され、新課程を意識したと思われる。まとめづらい論述も見られるが、方向性が示されているものがほとんどで、記述式問題も標準的な問題が並んだことから、昨年並みの難易度といえるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	キリスト教の歴史	問2, ミトラ教はやや難。問3 (イ), クローヴイスは改宗によって、ローマ系貴族の支持を得た。またローマ教会や周辺諸国との関係について触れたい。問4, 問題の指定からウマイヤ朝時代のことについて触れる必要はないだろう。問5, 図像を対比してその特徴と、その特徴が生じた背景について述べたい。イスラーム教とキリスト教の偶像の扱いの違いについて述べたい。問7 (イ) 多くの教科書に掲載があるバイユーのタペストリーを見て説明する問題。何を記述すれば良いか迷った受験生も多いだろう。ノルマン人が喫水の浅い船を用いたことや鎧を用いたことは一部の教科書に記述がある。問9 (ア) は北大プレでも同様の問題を出題した。(イ) の論述は頻出事項のアカプルコ貿易についての説明。	標準

設問別講評			
2	明・清の支配体制	問1は空欄記述問題で、基礎から標準的な難易度。問2，明は海禁政策を採り，これまでの自由な民間交易を制限した。問3，マラッカ王がイスラーム教に改宗したこと，それによってムスリム商人の往来が活発化し交易の中継拠点となったこと，東南アジアのイスラーム化に貢献したことに触れたい。問8，やや答えづらいが，康熙帝時代の外モンゴル・チベット支配，乾隆帝時代の東トルキスタン支配と新疆設置について触れればよいだろう。	標準
3	国民国家の形成と〈帝国の解体〉・〈脱植民地化〉	問1，(D)のポルトガルはやや難しい。問2，旧スペイン領ラテンアメリカについては，共和政とクリオーリョによる支配，プランテーション経営からのモノカルチャー化，イギリスへの経済依存について記述したい。問3（ア）旧オスマン帝国領の中東地域を英仏で分割した。それぞれの支配地域について記述すれば良いと思われる。（イ）は頻出問題である。問6，指定語句が4つあるので，書くべき内容は明確であるが，3行でという字数指定が厳しい。問8は盲点であった受験生もいたかもしれない。	標準

合格のための学習法

記述問題の難易度は，例年並であり，確実に得点したい。標準的な語句について固めれば，論述問題についても対応することができるだろう。論述の分量は試験時間に対してやや多い。普段から同様の60～120字前後の論述問題に取り組んで慣れておく必要がある。論述練習の際には字数から書くべき事柄が何かを意識するとよい。論述のテーマ自体はそれほど難易度が高くないものが多いので，出題頻度の高いテーマや事件・人物に関する論述で練習するようにしたい。